

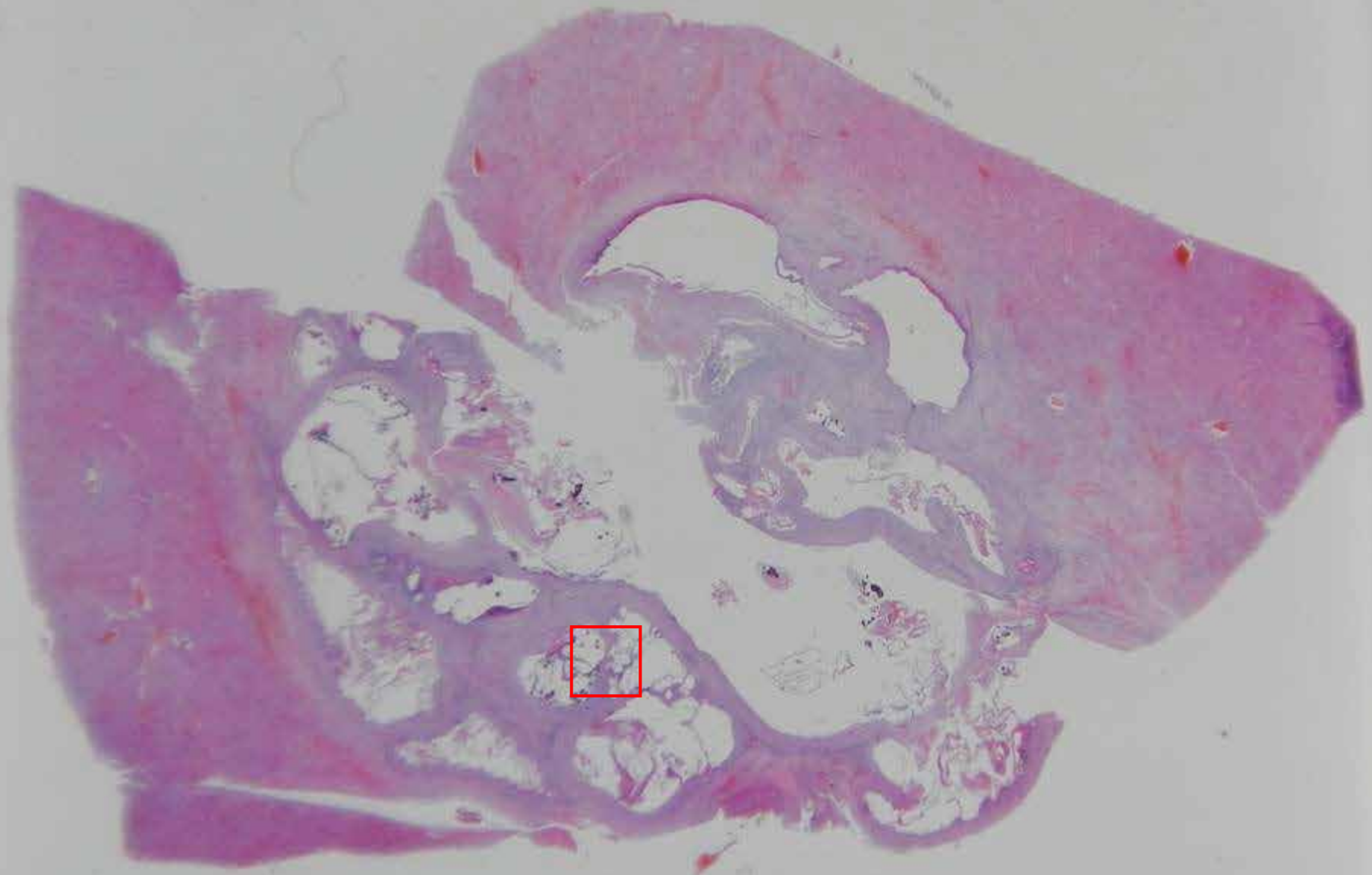
サルの肝臓

提出機関：ドイツ霊長類センター

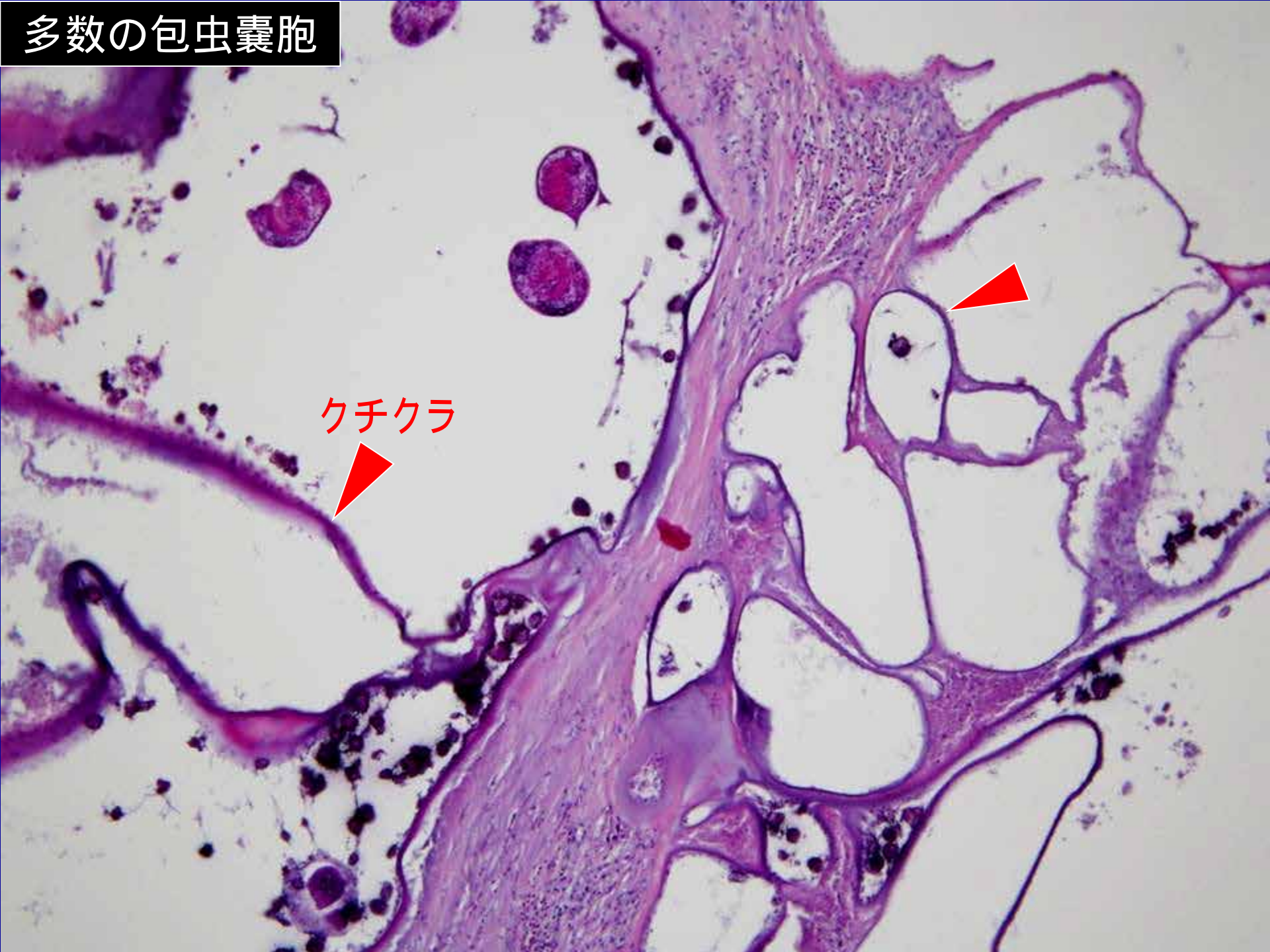
症例：アカゲザル 10歳 雌

病歴：繁殖用に飼育されていたが、病気の徴候もなく、死亡しているところを発見された。室内で飼育されていたが、屋外への出入りは自由であった。

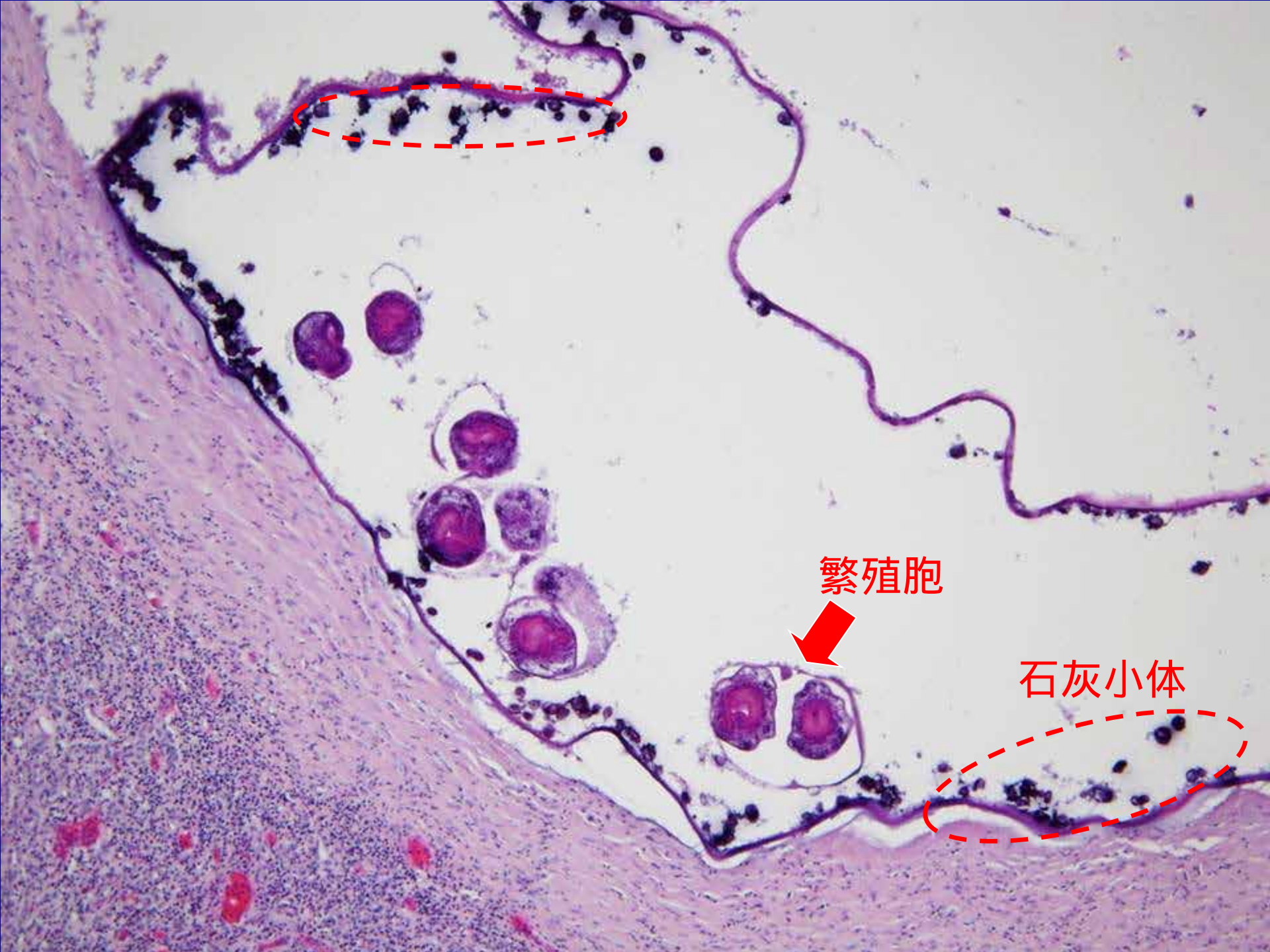
剖検所見：肝臓は腫大し、多数のシスト(最大約5cm)が全域に散在。シスト内部はゼラチン状の液体で満たされ、包虫砂を含む。亜急性腹膜炎。同様のシストが脾臓にも散見。



多数の包虫嚢胞



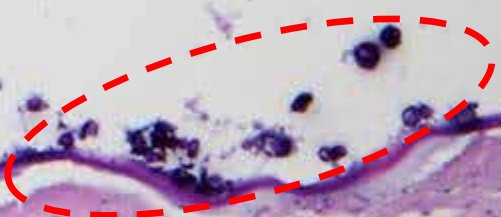
クチクラ



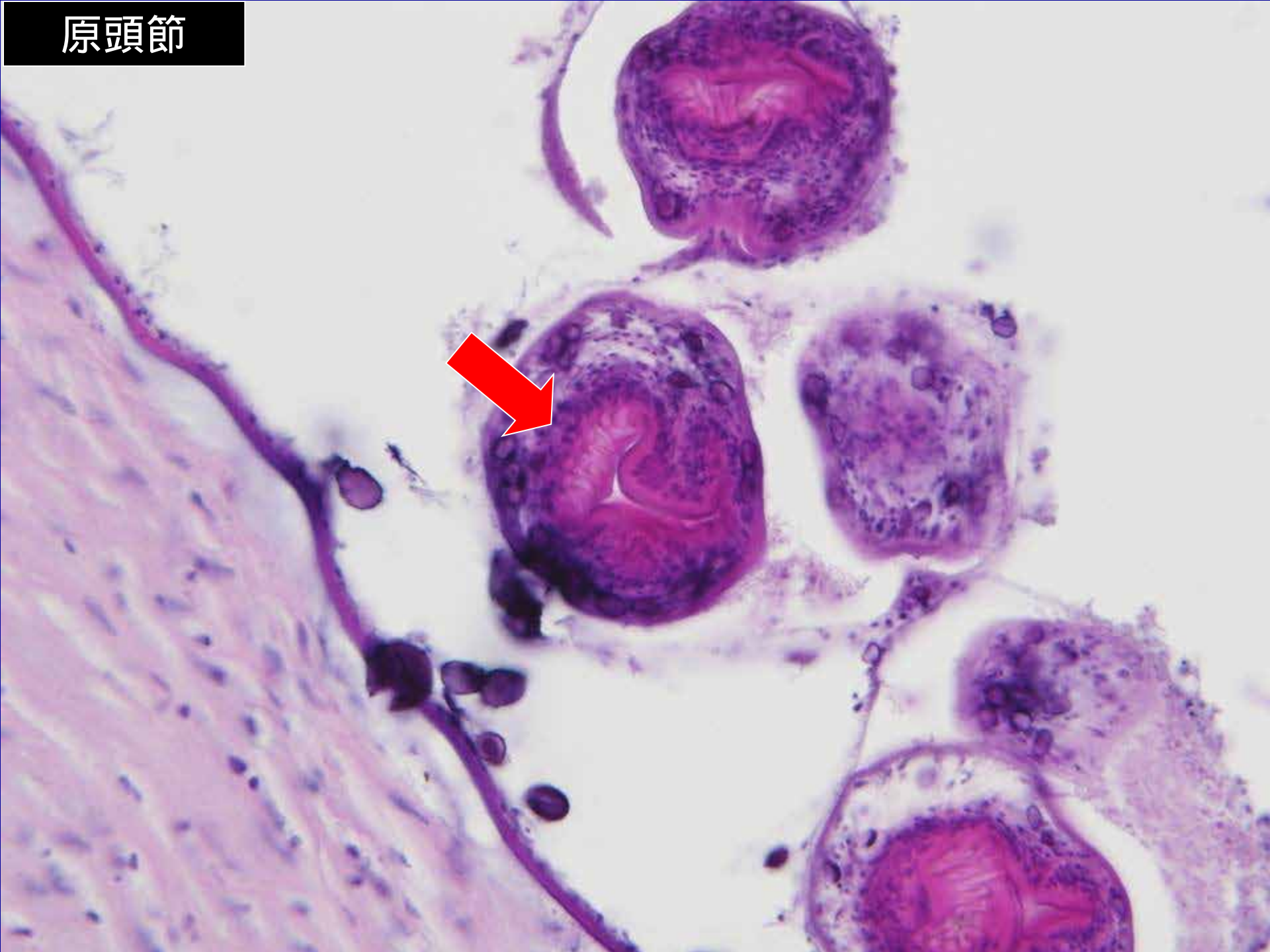
繁殖胞

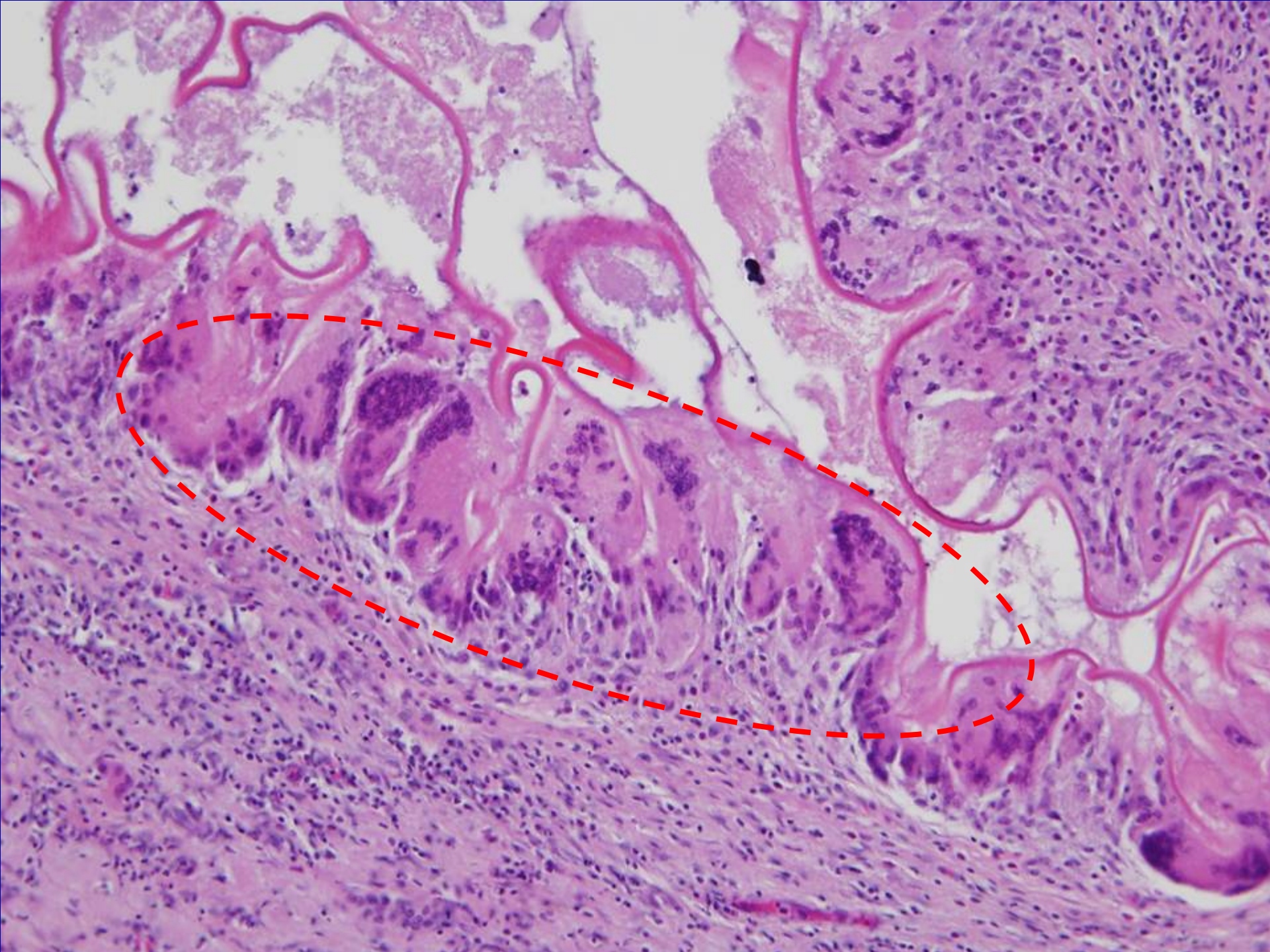


石灰小体

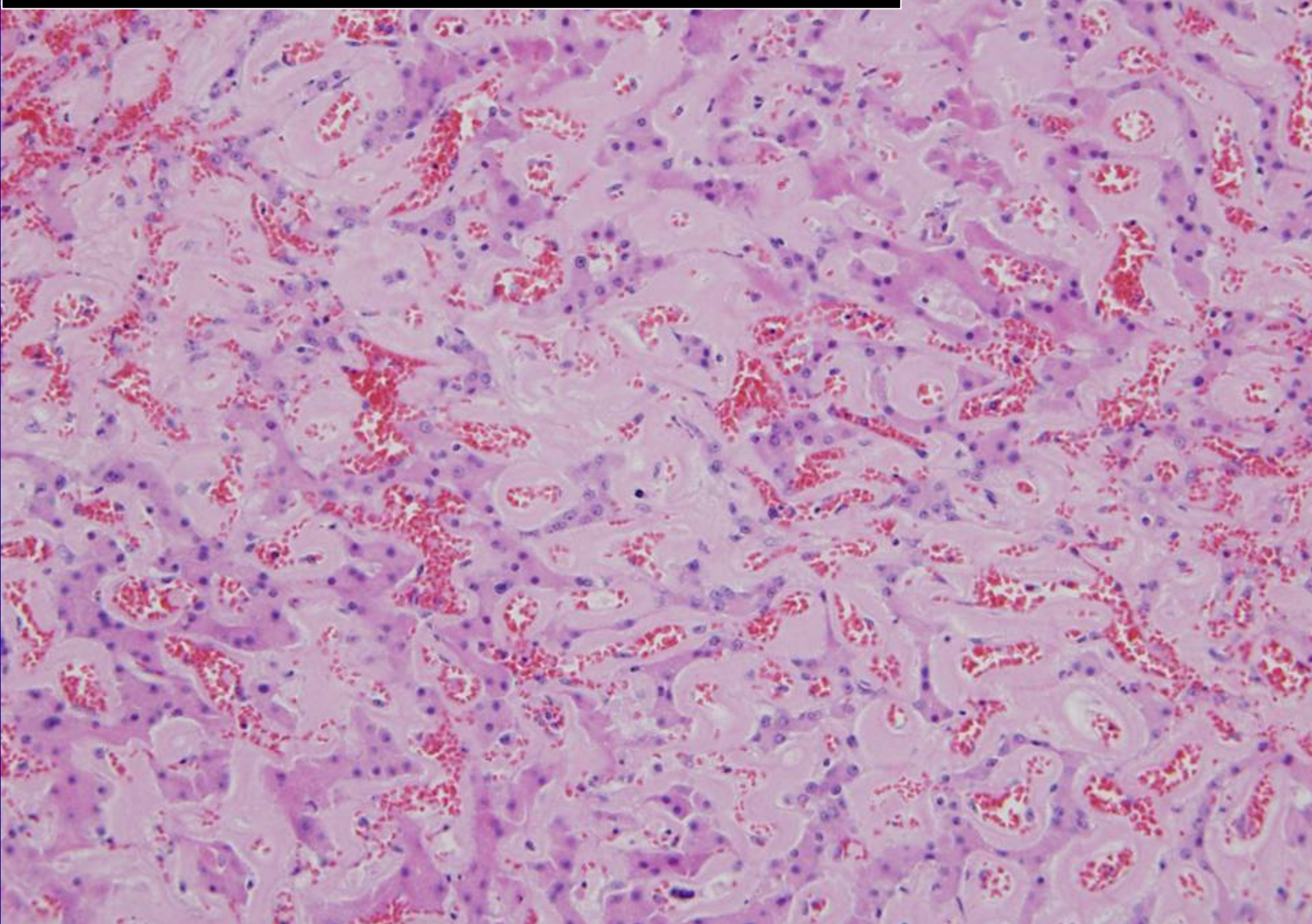


原頭節





包虫嚢胞周囲のディッセ腔にアミロイド沈着



- 提出者の診断

肝臓：肝炎、肉芽腫性、慢性、多病巣性、重度、*Echinococcus multilocularis* の第2期幼虫を伴う、アカゲザル (*Macaca mulatta*)、霊長類

(Liver: hepatitis, granulomatous, chronic, multifocal, severe, with metacestodes consistent with *Echinococcus multilocularis*, rhesus monkey (*Macaca mulatta*), non-human primate.)

- JPCの診断

1 . 肝臓：包虫嚢胞、多房性、肝細胞の消失と線維化を伴う、中等度の肉芽腫性肝炎

2 . 肝臓、アミロイド症、びまん性、中等度

(1. Liver: Hydatid cyst, multiloculated, with hepatocellular loss and fibrosis, and mild granulomatous hepatitis.

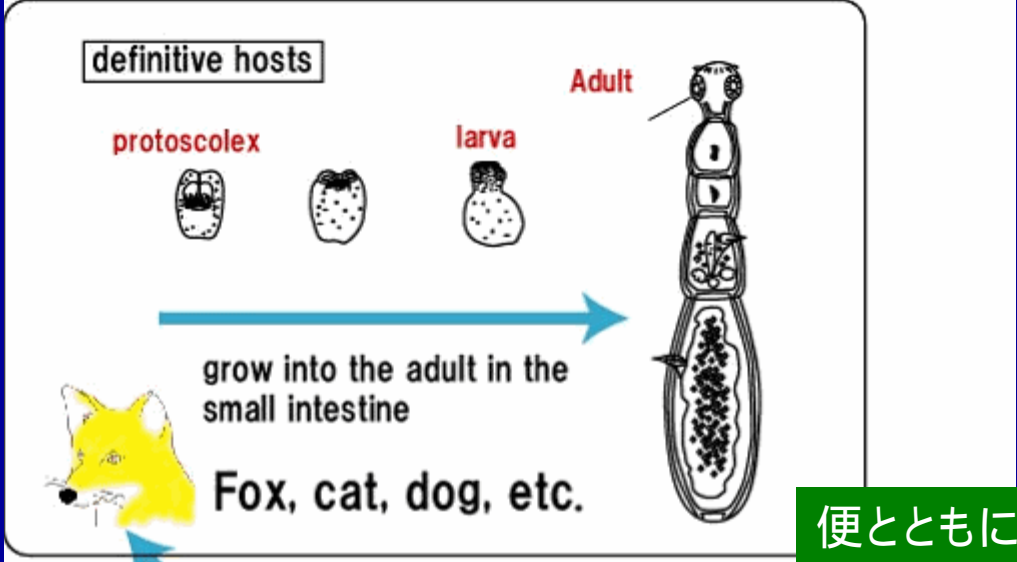
2. Liver, Amyloidosis, diffuse, moderate.)

Echinococcus multilocularis

(多包条虫)

- *Echino*=棘のある、*coccus* = 球状のもの
- 円葉条虫目条虫科。
- 成虫は平均2 ~ 4 mm。
- 中間宿主は野ネズミ、固有宿主はイヌ科動物。
- 人獣共通感染症。ヒトは非好適中間宿主としての感染。キツネや犬の糞便内の虫卵を偶発的に経口摂取して感染。長い潜伏期(数年 ~ 十数年)を経て発症し、肝機能障害を伴う重篤な症状を示す。
- 豚や馬も非好適中間宿主として感染するが、原頭節を形成せず、伝播には関与しない。

終宿主



便とともに排出

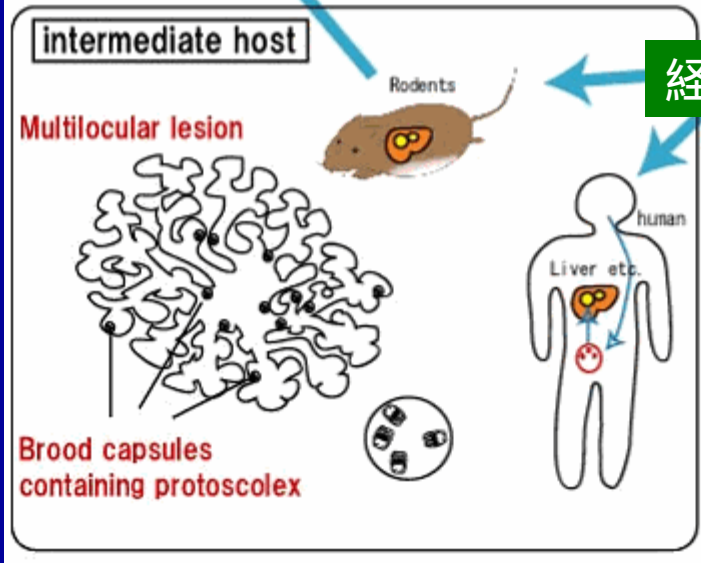
Life cycle pattern of *E. multilocularis* in Hokkaido

経口

虫卵



中間宿主



会議録 (アミロイド症)

- アミロイドAの前駆体である血清アミロイドA蛋白 (SAA) の合成は、IL-1, 6などのサイトカインにより調整されている。
- 炎症刺激は、SAAなどの急性期蛋白の増加を促進する。
- アミロイド症は、SAAの不完全な分解または、分解を阻害する異常なSAAの産生により発生する。
- 寄生虫誘発性のアミロイド症はげっ歯類のフィラリア症、人の住血吸虫症、人以外の霊長類の肺包虫症で報告がある。